

ひめまつ

須賀栄子先生記念講堂完成特集号

43



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

武楽

ひめまつ 目次

(第四十三号)

表紙絵……………島田武幸 題字……………石川木魚 写真……………写真部・編集部

巻頭言

講堂三代記……………校長 須賀 淳……………1

須賀栄子記念講堂落成に寄せて……………1

戦争で焼けた初代の講堂……………同窓会長 篠崎キミエ……………4

戦後復興した旧講堂……………元本校教諭 戸室 文子……………5

わが校のシンボルとして……………三年 石井 昌宏……………7

初めて使用した感激……………三年 船見小百合……………8

◆◆ 全員参加の実感を (生徒会会長に就任して)……………高橋めぐみ……………10

◆◆ 益々の発展を期待 (任務を終えて思うこと)……………石川 智子……………11

へ声

いま大切にしたいもの……………12

「今と私」……………三年 小田島由季子……………1

「友情を大切に」……………三年 京田 美鈴……………1

「ありがとう」……………三年 今井なおみ……………1

「自分自身を大切に」……………二年 足達 洋子……………1

「読書」……………一年 川口 美保……………1

「友達を作ること」……………一年 大島 由紀……………1

「自分を見つめ直す」……………一年 内田 愛……………1

*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)……………18

「審判」……………三年 興野 文剛……………2

「紀ノ川」……………三年 鶴寄 洋子……………2

「狭き門」……………三年 田瀬 友子……………2

「人間失格」……………二年 大畑優美子……………2

「風と共に去りぬ」……………二年 松村友紀子……………2

「車輪の下」……………一年 館野 倫子……………2

「ヘレン・ケラー自伝」……………一年 高野 光世……………2

「複合汚染」……………一年 大関芽以子……………2

◇作品集

詩 (三年) 荒川 紋・星野ひかり 他

短歌 (三年) 今泉 桂子・見上 幸子 他

俳句 (三年) 大竹由規子・高塩由美子 他

☆あとらんだむ

(三年) 小池 典子・神山 志野 他

月関西・四国・大洗・日光の旅

(三年) 加茂 妙子・鈴木由香理・平出 道子・星野ひかり・福田 早苗

(二年) 小林ひろこ・鈴木あずさ・鈴木さえ子

(二年) 内田 知子・大橋 庸子

招待席

金田 敏彰・和久 誠・大谷 武・角海 武・森島 一男

◆わがホームルームの紹介

◆委員会・クラブ活動この一年

◇学友会の奉仕活動

★学園ニュース

◇告知板

附属中コーナー

P T A 役員・生徒会役員 その他

◎昭和六十三年生徒会報告

◇就職状況

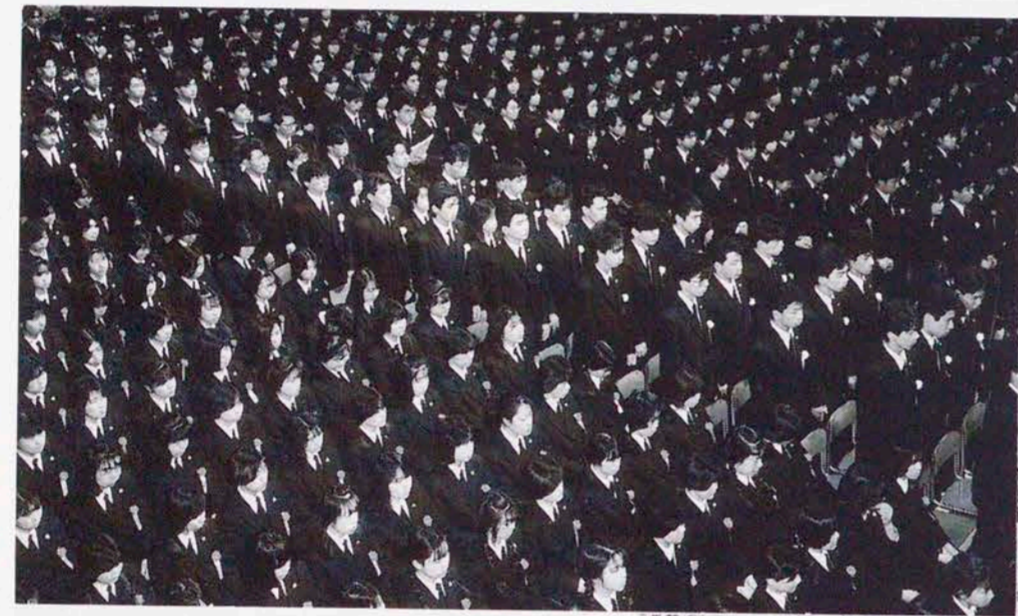
◇職員住所録

◇編集後記・奥付



▲校長先生の激励をうけてワープロ競技

▶大優勝杯を受ける
(中学運動会)



▲「螢の光」に送られて (卒業式)

▶右上・生徒達で墓地清掃 (創立者命日)

▶右下・希望と不安をいだいて入場 (高校入試)

▼みんな楽しく (イートピア見学)



学園の四季

宇都宮短期大学附属高等学校

校 歌

作詩 菅谷徳次郎
作曲 野原幸夫

ふ た ら の た ー か ね を は る か に あ お ー き
に わ も に し ー げ れ る ひ め ま つ こ ま ー つ
ま な び の み ち す し ま さ き く あ れ と
か な わ ら め み さ お は ま ち よ よ ろ す よ と
か た み に ち ー か い て い そ し み は げ む
か た み に い ー か い て い そ し み は げ む
お し な び の に ー わ こ そ げ に と め う で た け れ
あ わ れ と め う で た こ ー の ま な び や

校 歌

一 二 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
学びの道筋を まさきくあれと
かたみに誓いて いそしみ励む
教への庭こそ げに尊けれ
あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
変らぬ操は 千代万代と
かたみに祝いて いそしみ励む
学びの庭こそ げに芽出度けれ
あわれ芽出度 この学びや

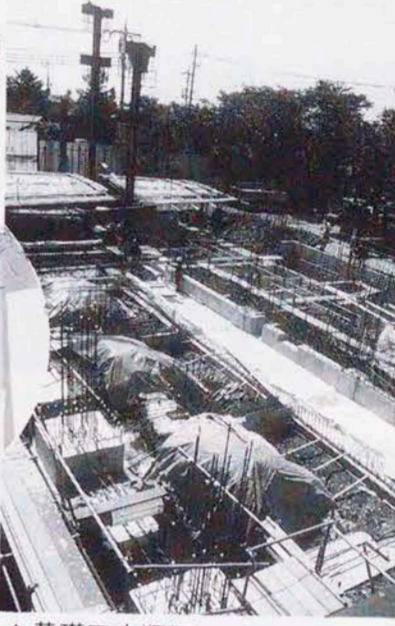
記念講堂の記録



▲上棟式行わる (63.4.26)
◀工事中の内部を見学する生徒達 (63.4.26)



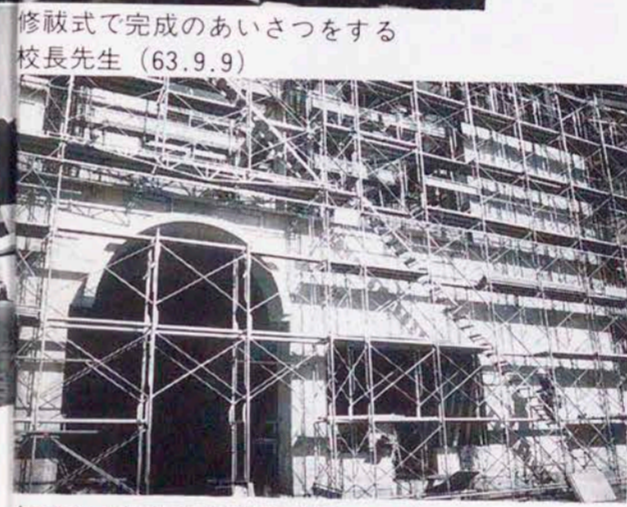
▲地鎮祭で工事の安全を祈願する校長先生 (62.4.18)



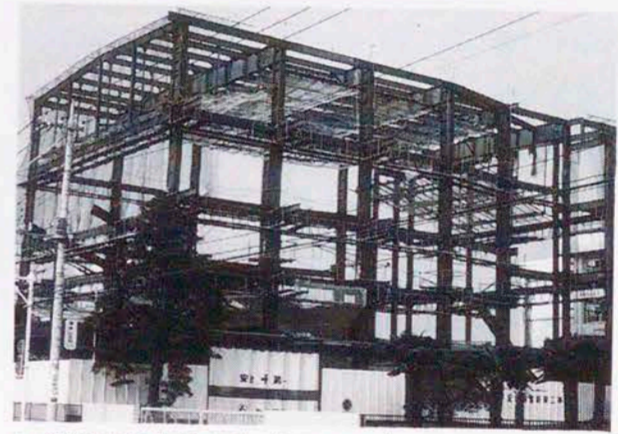
▲基礎工事順調に (62.6.20)



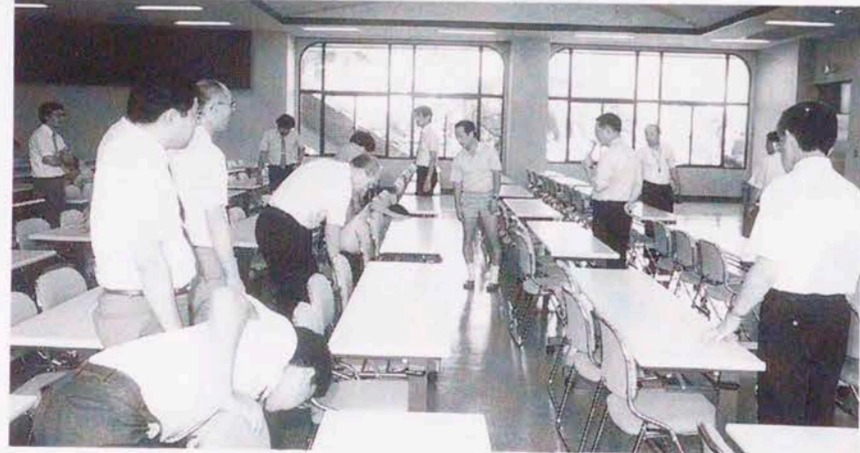
▲小ホールに開設された学校祭の食堂は大好評 (63.11.6)



修葺式で完成のあいさつをする校長先生 (63.9.9)
セメント打ち込み進む (63.2.24)



▲骨組工事も終わる (62.8.29)



▲先生への用方説明会 (63.9.3)



▲ご自慢のメカを駆使した放送照明設備 (63.9.3)



生徒にも工事の進行状況を公開 (63.4.26)



▲「すごい設備だね」と説明をうける先生方 (63.9.3)

まった旧校地（松が峰町）の初代講堂が思い出されます。



巻頭言

講堂三代記

校長 須賀

淳^{あつし}

私の長い間の夢だった須賀栄子記念講堂が一年六か月の工期を費して立派に完成しました。来年十一月に迎える本学園の創立九十周年の記念事業の一つとして計画されたのですが、在校生の皆さんはもちろん卒業生の皆さんからもたいへんよろこんでいただいて、私もうれしきで一杯です。

この記念講堂の建設のために取りこわされた旧講堂は、卒業生や生徒の皆さんにはなつかしい思い出が沢山あるでしょう。そして、戦前の卒業生や私には、その前の昭和二十年の戦災で焼けてし

各科だより



▶まず体力を、と球技大会（普通科）
▶父兄を招いての試食会（調理科）



◀着付け発表に先生も登場（家政科）



▼クラスの名譽をかけて合唱コンクール（商業科）



世界の三指に入る台北・円山大飯店(ホテル)前で、校長先生(右)、松井宇都宮西ロータリークラブ会長(左)と記念撮影(音楽科)。

生徒会役員

副会長 床井崇子	副会長 小堀景子	会長 高橋めぐみ
庶務 篠原知子	庶務 八木澤政和	会計 村田明己
議長団 清水真一	議長団 内田知子	議長団 岡本義裕
		議長団 小林明子

昔は、講堂や体育館がある学校は珍しく、入学式や卒業式などの学校行事のときのために、普通教室の間仕切りをとり払うことが出来るようになっていました。しかし、本校ではなんとか立派な講堂をもちたいというのが前校長（私の父）の念願で、昭和十六年にやっと資金の工面もついで、本校ではじめての講堂を建てることになったのです。いよいよ起工式というときに、十二月八日、思いもかけず太平洋戦争がはじまりました。当時すでに建築資材や人手が不足してしまいましたので、大戦争がはじまって講堂の建築もどうなることかと心配されましたが、校長先生は万難を排しても予定どおり建築することを決意し、着工しました。苦難の末に無事完成し、生徒の皆さんはたいへんよるこんで学校行事などに講堂を使っていました。しかし、昭和二十年七月十二日夜の宇都宮大空襲で、学校の校舎もろともこの新しい講堂も焼けおちてしまいました。校長先生はこの講堂の玄関正面に掲げられてあった大きな校章を焼け跡から拾い出し、よく磨いて台板をつけ、大切に保存されました。

校舎が全焼したため、生徒たちの授業も心配されましたが、幸いにして、軍の兵舎のあとを国から譲り受けることができ、現在の睦町の校舎に移ったのが昭和二十一年の三月でした。兵舎を改造して普通教室や特別教室をつくりましたが、もちろん講堂はありません。ただ大きな集会室がありましたので、それを講堂の代りに使っていました。グラウンドの北側にある細長い二階建の木造校舎がそれです。しかし、なんとか前の講堂のような立派な建物がほしいというのが先生方や生徒たちの願いでした。当時は戦後ですべての物が不足していた時代ですから、なかなかむずかしく、また全焼した校舎の復旧に多くの費用がかかりますので、講堂まで手が廻らないのが実情でした。PTAの方々の御協力もあり、昭和二十八年になん

とか新しい講堂を建てることができました。当時としてはたいへんモダンな設計で、人の目をひいたものです。

この旧講堂は、非常に使いやすく、いろいろな催しに使われ、今日に及んだわけですが、私は創立九十周年の記念事業として、よその高校や大学にはない本格的なホールをつくりたいと思ひ、新しい記念講堂を建設することになったのです。しかも、旧講堂の機能をひきついで一階のコンベンションホールと、劇場のような固定座席をもつ大ホールと二つを重ねた形のみずらしい建物です。さらに音響設計をNHK技術研究所に依頼して、NHKホールに劣らない音響のよいホールとして高く評価されています。

本学園の生徒の皆さんが、創立者の名をとったこの須賀栄子記念講堂で、情操豊かな、しかも充実した学校生活を送ってくれることを希望しています。

【校長略歴】

宇都宮高校、東京大学卒業、
昭和二十四年文部省勤務、文部大臣秘書官、
文化財課長、教科書課長、初等教育課長等歴任
昭和四十三年須賀学園に戻る。
現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、
同附属中学校長・高等学校長、宇都宮大学教育
学部講師（教育財政学担当）、日本私立短期大学
協会理事、栃木県私学審議会委員、栃木県公安
委員等

戦争で焼けた初代の講堂



同窓会長 篠崎キミエ
(昭和十八年卒業)

二荒の高嶺を遙かに仰ぎ
学びの道筋まさしくあれと

この校歌を聞くたび、歌うたびに私はいつも過ぎ去った学生時代の様々な思い出が脳裏に浮かんでまいります。私は昭和十四年四月、当時宇都宮市松が峰町（現在の校長先生の御自宅付近一帯）にあった本校の本科一部に入学いたしました。本科一部（四年制）は各学年一クラス、本科二部（二年制）は各学年三クラス、そして、そのうえに専攻科、研究科があり全部で十二クラスでしたが、教室も十二室だったので、教科によっては一日のうちになんども教室をかえて勉強することもありました。それまでは学校行事の時には、二つの教室の仕切りを抜いて講堂として使用していましたが、昭和十六年に待望の講堂が建てられることになり、私たちは在校生は大へんよろこびました。ところが、いよいよ起工式が行われる直前の十二月八日、太平洋戦争が始り、建築材料や人手が不足していた時代でしたので、どうなるものかと心配をしましたが、須賀友正

校長先生は、どんな困難も乗り越えて講堂を建てると決心されました。約一年後の昭和十七年十一月に講堂は無事完成し、いろいろな学校行事や音楽の授業に使用することができました。私はその翌年の昭和十八年三月の卒業で、はじめて新しい講堂を使って卒業式ができたことを大へんよろこんだものでした。

当時、学校の正門を入ると創立者須賀栄子先生の大きな銅像があり、生徒たちは毎日、登下校の際に一礼して門を出入りしていました。私たちは友正先生から機会あることに栄子先生の人柄や建学の精神などをお聞きしてその御遺徳を偲びました。

その学校も昭和二十年七月十二日の宇都宮大空襲ですべてが焼けてしまったのです。その時の悲しみや落胆は今なお、忘れることができません。

とくに、新しい講堂も同時に焼け落ち、完成してからわずか一年八か月のいのでした。友正校長先生はどんなにがっかりされたことでしょう。

校長先生は焼け落ちた灰のなから、講堂玄関上に掲げられていた大きな銅製の校章を拾い出し、きれいに磨いて保存されました。これは毎年、学校祭の「校史」の部屋に飾られているので、現在の在校生の方々もご覧になったことと思います。

終戦後、学校は現在地に移転し、戦後の新しい学制に基いて授業も再開されたのですが、その間友正校長先生、奥様の華子先生はじめ教職員、卒業生の皆様のご苦労には大

戦後復興した旧講堂



元本校教諭 戸室文子
(前家政科主任・昭和十八年卒業)

わが家の庭の落葉を掃きながら、旧講堂の北側にあった老齢の桜の落葉を思い出していました。去る九月二十七日、記念講堂の落成記念行事の一つとして家政科の生徒を中心にした着付け研究発表会があり、私も御招待を受けましたので、記念講堂内部の施設設備を見せていただきました。一階はコンベンションホールであり、二、三、四階は本格的ホールとして音楽演奏をはじめ、各種の催しに対応できる高度な機能を備えているとのこと、そのすばらしい設備に感動いたしました。

私のとりわけ心に残ったことは、桜の老木が理事長室の東側の玉砂利をしきつめた坪庭に、高さ数メートルの太い根本も元のままに保在されていたことです。建築のためやむなく切り倒された桜の木を何とか残したいとの校長先生のお取り計らいによるもので、防腐剤を注入し、もとのように復元されたことでした。私は校長先生のあたたかなお心に感動いたしました。卒業生の心ふるさとしてある母校への思い出につながる老桜が、永久に記念講堂のそばに鎮座し、古い学校の歴史を物語ってくれることでしょう。

きなものがありました。

創立者の御遺志を継がれた友正校長先生は二代目校長として本校独自の教育方針を打ち出し、多くの困難を乗り越えられ、今日の発展の基礎をつくられました。直接御指導を受けた私は、友正校長先生の御恩を生涯忘れることができません。

校長先生の御自宅は学校の裏手にありましたが、私たちの学生時代、現校長の淳先生は字中（現宇高）に在学中で、毎朝、弟さんと仲よくつれだつて通学するのをよく見かけました。淳先生はいつも本を手にして、歩きながら読んでおられましたので、私たちは誰いともなく「昭和の二宮金次郎」と呼んでいました。

その後東大、そして文部省とすばらしいコースを進まれ、その御経歴が物語るように、学校経営にもすぐれた手腕を発揮されて、本校は教育内容、施設設備ともに充実した一大総合学園となりました。

とくに、先生は最近では普通科をはじめ各科の内容を充実されるとともに、県内では初めて屋上プールを備える第二体育館や図書館を、また短大には須賀友正記念ホールを、そして今回は創立九十周年記念事業の一つとして、このような立派な須賀栄子記念講堂を完成されました。九月の完成を祝う修祓式に出席し、すべてに充実した本校を拝見し、私は驚き、感激いたしました。

私は母子二代お世話になったこの母校に対し、その御恩の万分の一にでもお報いするため、卒業生として努力したいと思っております。

私は昭和二十九年三月から昭和六十二年三月までの三十五年間、母校に勤務させていただきましたが、旧講堂は本校が戦災にあつて全焼し、旧軍の施設のあとに移転してから、学校の施設としてはじめて建てられたものです。戦後のきびしい財政事情のなかから前校長須賀友正先生が御苦労をされ、またPTAの方々の御協力もいたたいて完成したもので、当時としては斬新な設計で、私たち職員生徒の自慢でもありました。

このたびの記念講堂建設のためとりこわされた旧講堂が落成したのが昭和二十九年、とりこわされたのが昭和六十二年三月ですから、私が本校に勤務した期間とほぼ同じ時期になります。したがって旧講堂の歴史が私の歴史といつてもよいでしょう。

旧講堂には入学式、卒業式、音楽会、合唱弁論大会、講演会等々数多くの思い出があります。旧講堂真正面ステージ右側には創立者須賀栄子先生と須賀友正先生のお写真や「一人は一校を代表する」等の額、左側には「肅警」という芸術院会員児玉希望先生の立派な横額、後方には灘尾文部大臣による「力行不息」の扁額等が掲げられ、先生生徒はおのずから身の引き締まる思いがし、修養道場でもありました。

旧講堂にまつわる行事の中の、とりわけ心に残ったことを記してみたいと思います。

東京ではファッションショーがボツボツ開催されていたことにはあやかたわけです。ステージ中央に人が歩ける幅の机をならべ、茶幕で覆い、机の両サイドにはオーケストラの生徒が座席を占め演奏に協力していただきました。

生徒の作品も素材が現在のように豊富ではなく、合成繊維または綿織物というお粗末なものでした。着物も戦争中の節約の気風が残っており、一反もので一部式、二部式、三部式と製作、三部式は三つ組で当然生地が足りないのので、上衣・後側は裏布を足し、表からは差しさわりのないように仕立て、またワンピース、スーツも貧弱な素材を使用し、製作、機械あみも出まわりはじめたころで、ほとんど素あみばかり、茶羽織、セーターなどをそれぞれのもとの組み合わせで着装、ふりつけにも生徒ともどもに苦労しました。

オーケストラの生徒のリードで、演奏とふりつけが何となくかまともって盛会におわり、ほっと胸をなでおろしたものです。

表する」という生活目標についてのお話しも、「一人ひとりの生徒がそれぞれに本校の生徒としての価値を知って、その価値を自分で見捨ててはいけないという意味です。それぞれの個性があると同じように、それぞれの価値があるのです。学校を巣立つ時には、自分の価値を認識して初めて目的が達せられたわけです。」と、先生がいていねいに、まことをもつて話されることに感動したものです。

さいごに、記念講堂南側に出来た日本式庭園には、昔、手押しポンプがあつた井戸がきれいな竹の編み蓋をつけて残されています。

校の記念樹と、この井戸のある日本式庭園は、いつまでもいつまでも大切に残して欲しいと思います。

わが校のシンボルとして

調理科三年 石井 昌宏



本校の創立九十周年記念事業の一環として、昨年三月の着工から一年六カ月の月日を経て、昭和六十三年九月に須賀栄子記念講堂が落成しました。

その充実した設備、規模の大きさはどれをとっても驚くばかりでした。とくに大理石を施した正面ロビー、最高の音響効果を誇る大ホールなど、完成した新講堂は私たちの

期待どおり、すばらしいものでした。

その完成を待ち望まれた新講堂は九月九日の修祓式がすむと、すぐにフル回転で活用され、全国中学校校長大会の分科会や中学校長先生に対する入試説明会をはじめ、校内合唱コンクール・弁論大会などさまざまな行事に使われました。調理科としても父兄試食会などで使用し、三年生にとつては最後の試食会を新講堂で催せたことがいい思い出になると思います。

また本校における最大の行事である学校祭でも、その役目を十分に果たすことができました。大ホールでは、音楽科のオペラ、演劇部の「新版・赤ずきん」などが発表され、七百五十人の客席はすべて満席で立ち見が出る程の盛況ぶりを見せました。また、小ホールは、大食堂として使用され、落ち着いたその雰囲気は一般のお客様に満足していただけたようでした。このようにまさに学校祭の成功に一役買ったわけです。その時、改めて新講堂の完成を実感するとともに、旧講堂のことを思い出しました。

思えば、伝統ある、慣れ親しんだ旧講堂が取り壊され、建設工事が始まったのが一昨年三月のことでした。現在の一年、二年生は旧講堂を知りません。あの味わいのある旧講堂を使用したのは私たち三年生が最後となった訳です。少し寂しい気はしますが、あの講堂も思い出として私たちの心に残ることでしょう。

そして、現在、同じ場所に最高の技術を結集して作られた須賀栄子記念講堂が完成しました。今後、我が校のシンボルとなり、華やかな行事の舞台となることでしょう。

最後に、須賀栄子記念講堂落成を機に、この宇都宮短期大学附属高等学校がますます発展することを心から願います。九十周年、さらに創立百周年へと伝統を引き継ぎ、そして新しい歴史を刻んでいってください。生徒の手でひとつひとつ、築き上げてください。私たち三年生も、本校の卒業生として恥じぬよう、何事にも頑張っていきたいと思

初めて使用した感激

家政科三年 船見小百合



須賀栄子先生の記念講堂が完成し、卒業を迎えてこの新しい記念講堂を使用することができうれしく思っています。思えば昨年三月に地鎮祭が行われてから一年六か月、九月には修祓式があり、その後最初の使用に着つけ研究発表会が大ホールでありました。初めて見た大ホールの中はきれいなオレンジ色の椅子で染つて見えました。また、大理石を使った床に、思わず手を触れてしまいたくなるほどでした。着つけ教室は毎年行われていましたが、家政科の三年生だけが見るといふ小さなものでした。でも今年は立派な大ホールができたので、発表会と名称もかわり、家政科の生徒全員、見ることができました。発表会もすばらしく、振りそでや留めそでなどの着

つけの舞い、それに生徒自身が作った浴衣の発表などもあり、着物に対する関心も深まりました。ホールの中は明るい照明と、もちろん暖かく、今までですと、椅子を運んだり寒いときにはコートを着たり準備が忙しく、また椅子に座っていても楽な姿勢で見られないということがあります。大ホールではそのようなことがないので落ちついて見ることができました。

でも、この記念講堂ができる前の旧講堂のことを考えると、思い出せばいろいろあります。旧講堂の横に大きな桜の木がありました。春になると花が満開になり、きれいで通るたびに見ていたのですが、その桜の木も新しい講堂の一部として保存されています。また小さな講堂でしたが、たくさんの方で集まるので混雑して、座るにもきゅうくつだったり、立つことができなかつたりということがありました。学年集会の時など、みんなで床に座り、足のしびれを我慢したり、身動きがとれず困ってしまうこともありましたが、それも今となつてはなつかしい思い出です。

新しい記念講堂は私たちにとつてもっと忘れられない思い出になるでしょう。講堂の建て直しが始まった時から、みんなが完成を楽しみにしていました。そして少しずつ完成していくたびに、新しい講堂の味を知り、喜びました。合唱コンクールの時初めて、舞台上に立った時、ホール全体と、座っている人、一人ひとりが遠くまで見えるので、大規模なホールのすごさを感じました。卒業する前に記念講堂を使うことができ、そしてこのすばらしい記念講堂のよさを知ることができて本当にうれしく思います。これか

からも大切に、きれいな講堂のままですべて使ってほしいと思います。

戦時下の昭和17年に建設された初代講堂



戦後の昭和29年に再建された2代目講堂



昭和63年に2代目講堂の跡地に完成した3代目講堂



〔須賀栄子記念講堂の概要〕

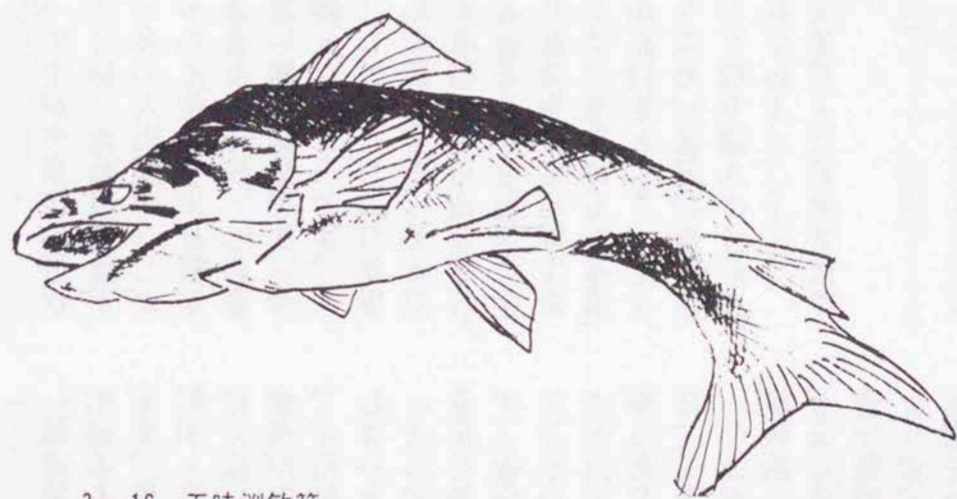
敷地面積 二〇七〇〇平方メートル
 建築面積 一〇九一平方メートル
 延床面積 二七五三平方メートル
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造地上四階
 大ホール 七五〇座席
 ステージ幅一四・五メートル、奥行九メートル
 コンベンションホール 三〇〇人収容
 (椅子のみの時五〇〇人収容、上下式ステージ)
 音響設計 NHK技術研究所

〔工事経過〕

昭和六十二年
 三月十日 着工(旧講堂解体)
 四月十八日 地鎮祭を挙げる
 五月一日 基礎工事に着工
 六月 鉄骨組み始まる
 十一月 セメント打ち始まる
 昭和六十三年
 四月二十六日 上棟式を挙げる
 五月 内装、各種設備工事進む
 六月 外装工事完成
 八月 内装工事完成
 九月九日 修祓式を挙げる

す。
一年間、支部長を務めてみて、今後の学友会活動に望む事は、全員が目的意識を持ち地域社会の人々に喜ばれるような奉仕活動を自主的にやる事です。何事にも意欲を持って行動し、多に活躍してくれる事を期待しています。頑張ってください。

(支部長・福田 巻)



3-16 五味測敏範

学園ニュース

初の海外研修で台湾へ

インターアクトの皆さん

海外のインターアクトクラブの人たちと交流をはかり、国際理解を深めようと、本校のインターアクトクラブでは、宇都宮西ロータリークラブ（松井昭会長）のおはからいにより、冬休みを利用して初の海外研修を行いました。参加者はクラブ員の音楽科二年、佐川美和、古庄奈穂子、室井園美、同一年、福富礼子、黒古芳美の五名の皆さんで、宇都宮西ロータリークラブのメンバーである須賀校長先生と同クラブの松井昭会長、渋川勝弥インターアクト委員長の引率のもとに、十二月二十八日から三十一日まで台湾の首都台北市を訪れました。

台北市では現地のロータリークラブやインターアクトクラブの歓迎を受けたのち、台湾で最難関の高校で全国から優秀な生徒が集っている台北市立第一女子高級中学校を訪問して交歓会を開き、話し合いの一刻を持つことができました。さらに市内の故宮博物院をはじめ主要なところを見学するなど大きな成果を収めて無事帰国いたしました。その感想を五名の方に語っていただきました。

台湾研修旅行に参加して

三年 佐川 美和
古庄奈穂子
室井 園美
一年 福富 礼子
黒古 芳美

私達宇都宮大附属高校インターアクトクラブの五名は、宇都宮西ロータリークラブの皆様方の御配慮により、十二月二十八日から三十一日の四日間、台湾への海外研修旅行というすばらしい体験をすることができました。今回の研修旅行は、初日の延平ロータリークラブの方々によるあたたかい、しかも豪華な歓迎晩さん会にはじまり、四日間にわたる充実した日程とあたたかいおもてなしに、私達はびっくりにました。

今回の研修旅行で一番印象に残ったことは、メインの行事でもありました。台北市立第一女子高級中学校を訪問したことです。正直に言って私達は訪問する前までは皆緊張して気が重かったのですが、呂少卿校長先生をはじめた皆さんの生徒さん達のあたたかい歓迎

を受けたとたん、なんとも言えない感激に変わりました。そして、特別な時だけにしか行わない儀仗隊やマーチングバンドを先頭とする全校生徒の皆さんによる閲兵・分列行進の歓迎式典など、その素晴らしさに驚き感嘆しました。また、私達一人一人に同中学の生徒さん一人がそれぞれつきそって校内を案内してくださいました。私達は学校の様子をみて、女学校の生徒さんが皆自ら勉強に興味を持ち、学業に励んでいるのが私達によく伝わり、さすがは全国一のエリート校だと実感しました。案内についてくださった生徒さんのなかには、親からの影響を受け、日本語をとても上手に話す方もあり、意志の疎通も十分にはかることができ、また親睦を深めることができました。

最後の晩に台北の延平ロータリークラブの例会に出席し、素晴らしい歓迎を受けたことも忘れることができません。歓迎パーティーの席で、延平ロータリークラブに所属する青年の方々と会話を交わしながら食事をしたり、歌の交換やバッチの交換をしましたが、歌によって和やかな雰囲気になった時、音楽は

素晴らしいものだと感じ、自分自身音楽を学んでいてよかったと思いました。そしてまた、いろいろな方が挨拶を述べてくださいましたが、その一人の方の「現代の若者が互いに手を取り合い、世界平和を築いて行かなければなりません。」という言葉は私たちの心に深く刻み込まれました。また、私たち内輪の食事の時に、松井会長さん、洪川委員長さん、そして校長先生が、戦争の苦しかったことと終戦の時の中国のことなどを私達に話してくださいました。世界の人々が平和を願う気持ちと同じなのだなど改めて実感し、現代の若者は世界平和の維持と国際理解の確立に貢献して行かなければならないと思えました。

私にとって、初めての海外研修旅行は、故宮博物院をはじめいろいろな所を見学させていただき、異なった文化や習慣あるのは台湾の素晴らしい経済発展を肌身に感じる事ができ、本当に有意義な四日間でした。そして、これからの長い人生において、日本人であるという自覚と誇りを持って世界に羽ばたいていけるような国際人になれるように努力し、努力して行くことと思えました。

台北延平ロータリークラブ

歓迎晩さん会におけるあいさつ

音楽科二年 佐川 美和

ひとことお礼を申し上げさせていただきます。このたびは、延平ロータリークラブの特別の御配慮により、私たちが宇都宮短大附属高校インターアクトループ員五名が夢にまで見た台湾に参る

ことができ、たいへん嬉しく思います。また今晩は、李会長さん、そしていろいろ御手配をいただいた張先生はじめ延平ロータリークラブおよびロータリークラブの皆様がお忙しい中を歓迎のパーティーを開いてくださってありがとうございます。明日は台北の第一女子上級中学校を訪問させていただきます。国際理解を深めさせていただきますことになっております。

この四日間を意義ある研修旅行にして、日本に帰りましたら、私たちの学校の二千三百名の生徒の皆さんにこの台湾研修旅行の様子を伝えたいと思います。本日は、本当にありがとうございます。

延平ロータリークラブ

歓迎会におけるあいさつ

音楽科二年 室井 園美

皆様こんにちは。このたびは私たち宇都宮短期大学附属高等学校インターアクトループの五名は台北市の延平ロータリークラブおよび日本の宇都宮西ロータリークラブの皆様

のあたたかい御配慮により、夢にまで見た美しい台湾を訪問することができました。心から感謝しています。そのうえ、一昨日は延平ロータリークラブの皆様方のあたたかい歓迎を受け、また本日はロータリークラブの皆様から御丁寧なお招きをうけて、多数の皆様方にお目にかかることができ、よろこびで一杯です。

私たちは、この三日間の台北滞在中に、孔子廟や故宮博物院を見学して、お国の古い歴史や文化を知ることができました。また中正記念堂や忠烈祠にお参りして、中国国民の建国に対する情熱に深い感銘を受けました。さらに貿易センターを見学してお国の近代工業の発展に目を見張る思いをいたしました。

このように私たちは、短い期間ではありましたが、お国に対する理解を深めることができ、またお国の皆様のあたたかい人情に触れて、心からの親しみを覚えました。

私たちは、こんごともロータリークラブの社会奉仕と国際理解の精神を体し、世界の国々の若い方々と手を取り

合って世界平和のために貢献したいと思えます。重ねて延平ロータリークラブおよびロータリークラブの皆様にご挨拶を申し上げます。ごあいさつといたします。

台北市立第一女子上級中学校の

歓迎式におけるあいさつ

音楽科二年 古庄奈穂子

このたびは私たちが台北延平ロータリークラブおよび日本国宇都宮西ロータリークラブのあたたかい御配慮により台湾を訪問し、台北市立第一女子上級中学校を見学させていただきました。私達は台湾を訪問することが大きな夢でしたが、昨日午後台北に到着し、早速孔子廟や龍山寺などを見学させていただきました。中国の古い歴史と文化に感銘いたしました。

本日は訪問させていただきました台北市立第一女子上級中学校は台湾全土から選ばれた優秀な方々が学んでおられる名門校とおききしております。このような立派な学校の生徒の皆さんとお

目にかかり、いろいろお話をうかがう
ことができますことは、たいへん幸せ
に思います。

私たちは、このたびの台湾研修旅行
の成果を今後の勉学に生かし、ますま
す国際理解を深め、これから国際社会
に生きてゆく上に役立たせたいと思
います。

重ねて呂少卿校長先生はじめ諸先生
方および生徒の皆さんに厚く御礼申し
上げます。

本日は本当にありがとうございます
た。



台北市立第一女子高級中学校の生徒たちと交歓

創立者命日に墓地清掃

本学園の創立者須賀栄子先生のご命
日である十月十四日には、例年のよう
に職員、生徒代表が宇都宮市八幡山墓
地の先生のお墓の清掃を行いご遺徳を
偲びました。この日清掃にあたったの
は高校三年の各クラス一名、中学三年
各クラス一名と生徒会代表など二十三
名で、室井先生、伏木先生の引率で参
りました。

約一時間かかって、きれいにしたあ
と生花を飾り、学園の生徒たちを代表
してお線香をたむけました。

また学校ではS・H・Rの時間に全校生
が一分間の黙悼をささげ、一斉放送に
よるテープで創立者を偲びました。

校医の高野先生逝く

生徒の健康保持に大きな貢献



死去された校医の
高野先生

本学園の理事とし、また本校の校医
として長年にわたり御尽力をいただ
いた高野 耕(たかし)先生がお亡くな
りになり、十一月二十七日に宇都宮市
の松ヶ峰教会で、しめやかに葬儀がと
り行われました。享年八十歳でした。

葬儀には須賀校長先生から別掲のよ
うな弔辞がたむけられました。学校
からは、万里子先生、齋藤教頭先生は
じめ生徒会の藤橋、室井、大崎、五十
嵐、伏木の各先生のほか多数の先生が
参列、また生徒会長以下役員十一名お
よびインターアクトの生徒たちの多数
も参列してお見送りいたしました。

高野先生については、校長先生の弔
辞によって、そのお人柄を知ることが

できますが、古武士のような厳しさと、
その反対にあたたかな好々爺といった
面影を宿された、あのお姿は皆さんの
印象にも深く残っていることでしょう。
改めて、ここに先生のご冥福をお祈
り申し上げます。

弔辞

本日ここに高野 耕先生の御葬儀に
列し、哀惜の念やみがたく、学校法人
須賀学園を代表して一言弔辞を申しの
べさせていただきます。

先生には戦後母校の岩手医科大学の
講師、盛岡鉄道病院の耳鼻咽喉科医長
として活躍されましたが、昭和二十六
年、宇都宮市に医院を開業され、以来
一貫して地域医療に貢献され、ととも
に、多くの小・中・高等学校の学校医
として児童生徒の健康の保持増進に力
を尽くされました。

また先生は、昭和三十六年私の父な
どとともに、宇都宮西ロータリークラブ
の創立会員となられ、積極的に社会奉
仕活動を行ってこられました。

私はつねづね父から先生の高潔な御
人格とあたたかいお人柄について承っ

ておりましたが、父の先生に対する深い御信頼から、私の学園の学校医に御就任をお願いいたしましたところ、先生にはお忙しいお体にもかかわらず、ここよくお引き受けくださって、生徒たちに親身の御指導を賜りました。さらに先生の教育に対する高い識見と情熱に感銘いたし、学校法人須賀学園の理事に御就任をいただき、長年にわたり私学の経営に多大の御指導とお力添えを賜ったのであります。

昭和五十七年、私の父の死去に際しましては、先生に学園葬の葬儀委員長をお願いいたし、以来、私にとって先生は父に代わる心の支えでもありました。

先生には信仰心の厚いやさしい奥様と聡明なお嬢様に恵まれ、あたたかい御家庭をきずいておられました。戦争中は二度にわたり陸軍軍医として、大陸にまた北の千島に転戦されました。とくに第二回目の召集では、御出産直後でまだ床に臥しておられた奥様が、生れたばかりの赤ちゃんを抱いて、窓から先生の出征をお見送りになられたというお話は、先生御夫妻の心中をお

察して、涙なくしては聞くことができませんでした。

幸いにして無事生還され、宇都宮の地におけるお仕事も順調に発展し、ロータリークラブにおいて社会奉仕に献身しておられました。このたび病をえて急逝されましたことは、私にとりまして、心の師を失った悲しみで一杯であります。

本日のお別れに際し、長年にわたる先生の御指導と御厚情に感謝申し上げます。先生の御冥福をお祈りして弔辞いたします。

昭和六十三年十一月二十七日

学校法人須賀学園理事長
宇都宮短期大学長

須賀 淳

伝統の包丁式を見学

尺八に合わせて伝統の技を披露する毎年恒例の包丁式が昨年三月四日に第二体育館を会場に厳かに行われました。見学した調理科生二百七十名は、あざやかな包丁さばきに、うっとり。そ

の見事な伝統の技を学びました。包丁式は千百年の伝統をもち、和食の作法を伝える食礼の行事です。この日の講師の先生は、四条真流調理師会の藤原徳二、川面光男、松田和明の先生方で、藤原先生が刀主、川面松田両先生が介添え役でまな板の清め役は調理科三年の大内正弘君がつとめました。

そのあと刀主の松田先生の「板前の世界」などについての講演をお聞きしました。

日ごろの成果発表

今年度の校内プロジェクト研究発表会は九月二十四日の三、四限を利用して大ホールで開かれました。

家庭クラブ会長の大会委員長からあいさつがあり、ただちに次のような日ごろの研究発表が発表されました。

「いわしの料理と工夫」(二年八組)
「リホームを楽しもう」(三年七組)
「捨てる物を見直そう」(二年五組)
「食器棚の整理」(三年六組)
「ファーストフ

ドの上手な利用」(二年六組)
「いとこのおやつとエプロン」(二年七組)
「シャンプー後のタオルの利用」(三年九組)
「洋服のリホーム」(二年十一組)
「いろいろな汚れのおとし方」(二年十三組)
「私のワンルーム」(三年八組)
「コレステロール値を下げる食事」(三年十組)

華やかに着付け発表会

新講堂の完成を祝って、その使いはじめを兼ねた「きもの着付け発表会」が九月二十七日、大ホールで行われました。

本校の卒業生で荒川着付、きつけ舞教室を開いている荒川富美子さんを講師にお招きして同教室から十二名、本校からも生徒十二名が参加して、大ホールのステージいっぱい華やかな着物の祭典を繰りひろげました。プログラムは「きものいろいろ」など第一部では振袖の着付けと帯結びなどの実技を、また第二部では「きつけ舞」や「大振袖の着付け」などが披

露されましたが、とくに新郎新婦の暗れ着姿には紋付きはかまの男子先生も一役かかって登場し、さかんな拍手を浴びました。

当日の様子は、各新聞にも写真入りで紹介されました。

四人組の善行明るみに

明るいニュースをお知らせします。昨年の夏休み、七月中旬のことですが、宇都宮市一条に住む松本恵子さんという方から校長先生あてに一通の手紙が届きました。

まず、その手紙をご紹介します。

前略
今月十八日の夕方、宇都大附属高校正門の向い側のバス停そばの狭い駐車場から、私が車でバックして出てきたところ、タイヤ一つが車道におち、から回りして動けなくなりました。途方にくれていたところ、そちらの学校の男子生徒二人(スラッとしていて一人は眼鏡)が通りかかったので

お願いしたら、快くひきうけてくれ、いろいろと方法を考えて下さいました。そこにまた二人の男子生徒が通りかかり、たのまれたわけでもないのに、いっしょになつて服がよれるのも気にせず、力一杯おしてくれて、あとからのお礼をいう前に行ってしまいました。

私はもう感謝の気持ちと暗いニュースが目につく中で、すばらしい方たちに会えたうれしさで頭を下げるばかりで、一年生ということだけ聞いて、お名前をきくのを忘れてしまい、残念に思っています。車を動かすことで頭がいっぱいで、お顔もはっきりとは覚えておりません。それで学校にお礼をいおうと思いません。

ほんとうにありがとうございました。(原文のまま)

人が困っていたら助けてあげる。こんなことは当たりまえかもしれませんが、しかし今は、この当たりまえのことが、とかく忘れられがちです。さつそく、学校で調べましたら、一年二組の阿久津文雄君、同四組の田鹿

浩史君にあと二年生が二人とのことでした。本当によいことをしてくれました。「一人は一校を代表する」を立派に実践したのです。このような「小さな親切」の積み重ねが社会を明るくし、住みよくする大きな力になるのです。

高文連手芸展開く

去る十一月十二日から十四日までの三日間、サンシャイン・ミニ・シティ（宇都宮市池上町）を会場に、全国高等学校文化連盟手芸部会主催の「第十回高校生手芸作品展」が開催されました。この手芸展も回を重ねるごとに、出品作品数も増え、内容も充実されてきています。今年は、手芸部会発足十周年記念ということで、各参加校から例年にもまして力を入れた作品が展示されました。また、みんなで作ったお土産の刺し子のコースターも、見に来て下さった方にとっても喜んでいただくこ

とができました。数ある中でも本校の友禅染は特に好評をいただいた作品です。図を考え、下絵、のりおき、地塗り、地染め、そして、色さしまで大変な行程をすべて私達の手で根気強く、つみ重ねていきました。夏休みから準備をし、長い期間をかけて出来上がった大作です。今年のパンフレットの表紙にもなりました。

その他には、パッチワークのベッとかバー、文化刺しゅう、フランス刺しゅう、刺し子のテーブルセンター、アファン編みのポレロ、クッション、カクテルドレスなども出品しました。どれもこれも力作揃いで、見に来て下さった人達が口々に「すごいなあ」「かわいいなあ」とほめて下さいました。本校は、校長先生が手芸部会長をなさっているので、事務局校になつており、私達手芸部も全体的なお仕事を手伝いさせていただいています。会場設定や展示の方法についても、考えるよりはとても大変で、いろいろと有意義なことが勉強でき、今年ほど充実した年はありませんでした。

国際的な眼を開く

指導して下さいました先生方に深く感謝したいと思います。また、この手芸展が大きく発展し、立派なものになるよう陰ながら応援しています。（手芸部副部長 橋本栄子）

ホームステイ体験記

高校生海外派遣から

調理科三年 石川 智子
国際理解の推進を目的とした栃木県教育委員会の高校生海外研修で、私たちが県内の高校生十名（男子四名、女子六名）は、さきごろアメリカ合衆国を訪れてまいりました。期間は昨年三月十六日から二十九日迄の二週間、サンフランシスコ・シカゴ・リッチモンド（インディアナ州）・ニューヨークなどの主要都市を回ってまいりましたが、最も印象深く、そして多くの思い出をつくるのが出来たのはやはり、リッチモンドにおける、一週間のホームステイでした。

リッチモンドは郊外住宅地で、都会の賑やかさはありませんが、それだけにのびのびとじていて広大なアメリカを思わせます。

私がお世話になった家庭はクイッグさん一家と、最後の二日だけ友人のリスの家に泊まりました。

クイッグ家の一家のご主人、ビルは地元のラジオオキスターをしているとのことでした。奥さんのスーはとても陽気で素敵な方、仕事を持つているのかと尋ねると一日中遊んでいるの、と笑って答えてくれました。娘は三人いるそうなのですが、私が出たのは二番目のアンと末っ子のレスリーだけ。

一番上のお姉さんは、家を離れて生活しているそうです。三番目のレスリーは十八歳で、私と歳も近い為かすぐにお互い打ち明け合うことが出来ました。初めてのアメリカ生活。最初はいささか不安でしたが、すんなりとなじむことが出来ました。やはり、気のおけないアメリカ人、そしてアメリカの家庭のせいでしょうか。会話に関する不自由はありませんが二日目、三日目を過ぎると、それも次第に気にならな

くなりました。勿論、辞書をいつも手元に置いて、手振り身振りの「国際語」を交えてではありましたが……。

レスリーは会う友達、だれにでも紹介してくれ、その友達がさらにまた多くの友達に会わせてくれて、まさに、友達達の友達はみな友達だ、ということを感じました。

食事については私はすべてに挑戦してみました。子供の敵と聞いていたオートミールも私の口にはあいませんし、日頃、洋食に慣れていない人はともかくさほどの相違は見受けられませんが、ただひとつ、食べられなかったのは——サンフランシスコのカフェテリアで食べたのですが——ブラックビーンス、日本でもおなじみの黒豆ですが、これをおそらくブイヨンで煮たのではないかと思えます。何というか——何ともいえない味、でした。

ホームステイに入ってから、食べられないものは何もありませんでしたし、耳にしていた生活習慣の違いも私自身に影響するような事は何ひとつ、と言っていない程、無かったと思えます。もしも自分の生活習慣との違いにぶつ

かった時は、それをはっきり伝えれば何の支障もありません。

その為には会話が必要ですが、ここで大切なのは、いかに多くの単語を理解できるかということよりも、少しでもコミュニケーションをはかろう、学ぶことに対する意欲、そして何よりひとつの事を伝えるのに、いかに熱心になれるかということではないのでしょうか。

アメリカでは皆、他人と知らない人とも気軽に話せるのに、日本でそれを不自然に思うのは、生活習慣の違いだと、一概に決めつけることはできません。

言葉の障害も和英、英和辞典などに助けをもらうことが可能なのですから、自分自身の気持次第です。人と接することにより、他人の良さを知り、また自分の可能性をも引きだす。国際理解を深めるには、先ず人間同士の理解から心がけていくことが大切なのです。リッチモンドでの滞在期間中、私はリッチモンド高校に通い、実際に授業にも出てみました。リッチモンド高校には、日本に興味をもつ生徒が多くい

る為、日本語のクラスもありました。最近設けられたそうです。日本語を選択した理由の中に、ブルックス先生というやはり日本に興味を持たれている先生の影響を受けた為、という生徒もいました。

そのブルックス先生の授業時間をお借りして、私たち、栃木県の研修生は日本の文化を紹介するアトラクションを行いました。

今、アメリカでもポピュラーになっている空手や、柔道、茶道、また、そろばんの使い方を教えたり、筆で名前を漢字に直したり、日本の歌（赤とんぼ・ふるさと・もみじ）を披露、皆で一語に折り紙をしたり、とそれぞれ楽しんで頂けたと思います。

私は調理科という専門学科に属していることもあり日本料理を受けもたせて頂きました。

何を作るかあれこれ迷い、ひとまず材料を見てからとスーパーマーケットに仕入れに行ったのはいいのですが、まずお手あげでした。大根、ラデュッシュといえは赤かぶ、かつおぶし、かつおの燻製といえは肩をひそめ、椎茸

は通じず、いったい何を作ればよいのだろうと途方に迷いました。

結局、鍋を作ること決め、だしは鶏がらで取り、調味料は醤油が手に入り、味淋と日本酒の分はクッキングワインでごまかせとの涙が出そうなお言葉を先生に頂き、とにかく、白菜、大根（日本の大根を縮少したようなものが見つかった）、長葱、豆腐、椎茸の代用のマッシュルーム、鶏肉などをそろえました。

問題は鍋です。さいわいホストマザーのクーラーから電熱式の深底パンを借りることが出来ました。（電熱パンで鍋を作る。これ、いかに）包丁と俎板を借り、他のアトラクションを行っていたわきで鶏を四ツ取に仕上げました。時間が少なかつたので手のあいている仲間に手伝ってもらい、鶏がらでだしを取り、材料を切るかたわら、歌に参加したりと、大わらわ。

少し味を濃い目に仕上げ、出来上がり希望者に味わって頂きました。反応は「満足してもらったといつてもいいと思います。ブルックス先生が「You are nice cook」と誉めてくださ

り、とても嬉しかったです。

日本料理に関しての説明は充分ではありませんでしたが、一所懸命、著者を使って日本料理に親しんでくれたアメリカの学生、先生方を見たら、何も言う必要はないのではないかと思います。

これからも、まだまだ、日本料理、日本文化の素晴らしさを広める余地はありそうです。



ホームステイでの筆者
(右から2人目)

告知板

「とちぎの味」
コンクールに出品して

家政科三年 舟岡 尚美

八月十二日 私は「とちぎの味」コンクールに参加するため、会場となっている宇都宮調理師専門学校へ行きました。会場には、主婦や高校生が材料道具の入った大きな袋を持って少し緊張した顔で始まるのをまっています。私も前日から念入りに用意をした材料を持って時間になるのを待っていました。十時三十分、係の方の合図で開始です。最初は緊張して思うようにできませんでしたが、いつのまにか学校の調理の時間のように自分のペースで作品を作り上げることが出来ました。私の作品は、湯波の中に、さつまいも、かぼちゃをそれぞれ裏ごしして甘く味をつけたものと、落花生をこまかくだいて、砂糖、バターであえたものを

一つ一つ湯波で包みかんびょうで結んで油で揚げたものです。作り方は簡単なので味付けを変えたりして何度か練習をしましたが、近くの店の湯波は切れたりして思い通りには、なかなか出来なく、父にたのみ日光まで車で買いに行きました。そして、十二日の本選には本校の調理科の卒業生の家で湯波を作っていると先生に紹介されて、その湯波をつかいました。この湯波は乾燥湯波でなく生湯波だったので切れることもなく、今までで一番良い作品が出来たと思います。盛りつけをして展示室に運ぶと素晴らしい作品が沢山並んでいました。審査の間に昼食をとり、その後他の人の作品を試食したりしました。とてもおいしく私には考えのつかないような作品ばかりでした。

そして、三十分位遅れで審査発表が始まりました。各賞の発表が次々と進んでいき最後の大賞発表です。

「湯波菓子の宇都宮短期大学附属高校の舟岡尚美さん」と発表され、その後「一言感想をお願いします。」と言われ私は震えながら感想をいきました。自分では何を言ったかは全然覚えていま

せん。でも信じられない驚きの気持ちの中で、早く先生や両親、友達に伝えたいと思いました。そして、このコンクールで最優秀賞に七組の植木加奈子さん、努力賞に阿部裕子さん、橋本栄子さんが一緒に入選しました。私はその時、自分が大変大きな賞をいただいたという実感は薄く、その後、新聞社などからインタビューをうけたり、日があつたつれて、本当に大きな賞を私がつけてしまったということが少しづつわかってきたのです。

そして、十一月三日 食と緑の博覧会、イトピアとちぎ「マロニエ館」で表彰式が行われました。当日は、校長先生ご夫妻もおいでくださり、表彰式終了後、校長先生より「おめでとう、よかったね。」とお祝いの言葉をいただき、とても感激いたしました。

高校生活三年間の中で一番心に残る思い出になりました。今は、「とちぎの味」コンクール出品のためにご指導いただいた先生、湯波を買いに日光まで車で行ってくれた両親、いろいろと協力してくれた友達に感謝したい気持ちでいっぱいです。

編集後記

平成元年。

ことは新しい時代へのスタートの年となりました。このような意義のある時にあたって皆様に『ひめまつ43号』をお届けできることを、私たち編集委員一同心から喜んでおります。

昭和は六十四年で幕を閉じましたが、その最後を飾るかのように、長い間私たちが待ち望んでいた「須賀栄子記念講堂」の完成をみることができたのは、まことにうれしく思います。この記念講堂は、来年秋を迎える本学園の創立九十周年の記念行事の一つとして建設されました。このすばらしい記念講堂の完成を祝って本号は「須賀栄子記念講堂完成特集号」としました。

先ず、校長先生から「講堂三代」の一文をいただき巻頭言を飾らせていただきました。どうかグラフィページの記念講堂の出来るまでの写真と合わせてご覧ください。

そのほか同窓会長、元本校の先生、卒業生などの皆様からもお祝いの言葉や思い出を寄せていただき、在校生代表の二人にも喜びの声を添っていただきました。おかげで、充実したものになったことをお礼申し上げます。

また、いつもながら皆さんの詩、俳句、短歌、作文など多数の寄稿をいただきましたが、紙面の都合ですべてを掲載することのできなかったのを詫言いたします。

さらに先生方の作品欄「招待席」では前回の長田善先生

生につづいて、ヨーロッパ研修旅行に参加された金田敏彰先生から楽しい有益な記行文をいただきました。そのほか各クラスの皆様の協力によって個性あふれる「ホームルーム紹介」や、部、クラブ活動の報告などで豊富な内容になりました。

いよいよ来年十一月には創立九十周年を迎え、盛大な記念行事が予定されています。今年はその準備期間ですが私たち編集委員会も、今からすばらしい創立九十周年記念号の発刊に備えて準備を進めていくつもりです。どうぞ皆様もご支援ご協力をお願いします。

最後に、今年もまた顧問の和久 誠・大谷 武・山中晃子の各先生にひとかたならぬ指導をいただきましたことを感謝申し上げます。
(編集委員長・中島直美)

校史と校章

創立90年の歴史を刻む本学園の創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展させてゆかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校となり、さらに、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校と改名されました。友正先生の後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀 淳先生です。先生は宇都宮短期大学附属中学校を設置し、ますます学校を発展させて、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校はそのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えで、私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校には、現在に至るまで、いくつかの校章がありましたが、現在使われている校章の由来は、創立者須賀家の祖先が武士の旗印として使っていた、「ス」の文字を3つ組み合わせたものです。

「ひめまつ」第四十三号(非売品)

平成元年三月十日印刷発行

宇都宮市睦町一番三二五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 和久 誠

発行人 生徒会長 高橋めぐみ

印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一

ヤマゼン印刷株式会社

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒320 TEL 0286-841-6113番